

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
カラー・コーディネート Color・Cordinate		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択 ( )		
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ファッション関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ファッションコーディネート、ディスプレイ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
阿部芳子	社会福祉棟・3F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
色彩の基本的な理論や知識を学び、ファッションビジネス社会で生かせるよう基本的知識を習得する。①ファッション産業における色の役割を理解し、②色彩の知識を持って実践力をつけることを会得する。				
授業の目標				
①ファッションビジネスでは色をつくるテキスタイル産業、②色を選ぶアパレル産業、③色を（お客様に）見せるリテール産業について理解し、④さらに時代にあった新しい色（売れる色）を生み出し、全行程を指揮するカラー・デザイナー（コーディネーター）の仕事についても学ぶ。⑤色彩について、深い知識とセンスを身につけることは、今、世界に通じる感性として求められ重要であることも理解できるようになる。				
授業の方法				
講義中心。テキストとカラー見本で基本を理解し、資料と色彩運用技術で色彩実務スキルをアップ、さらに提案や調査による提出物で、色彩の理解と着実な色彩運用能力を高める。				
学習の成果（学習成果）				
①ファッション色彩の基礎知識・技術を学ぶことで、アパレル企業、小売企業などで、アシスタント的業務につき、ある程度の自己判断をしながら、色彩に関する業務を遂行することができる。②商品企画・デザインに関する業務であれば、商品色の原案を目的に沿って提示できる程度の色彩技能（スキル）をもつことができる。③販売関連業務であれば、店頭で色彩的な視点から商品陳列、展示できる技能・技術をもち、接客では、個々のお客様に対し初歩的なカラー・コーディネートをおアドバイスすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、概論一色彩のはたらき 1 生活における色彩 2 ファッションにおける色彩の役割			
第2回目	色彩理論 ・色の成り立ち ・光と色 ・三原色と混色 ・視覚と色 ・色彩と心理			
第3回目	色の表示 ・色名 ・三属性による色の表示			
第4回目	配色の基本 ・類似の配色と対象の配色 ・色相配色 ・トーン配色 ・無地配色 ・柄と無地配色			
第5回目	配色の応用 ・アクセント ・グラデーション ・セパレーション ・色の面積効果			
第6回目	流行配色			

第7回目	ファッションイメージとカラーコーディネート	
第8回目	生活環境と色彩 ・ 調和の技術 ・ インテリア・エクステリア・プロダクツ・メディア	
第9回目	色名表示 ・ J I S 系統色 ・ 慣用色名 ・ 日本の色 ・ 陰陽五行と官位十二階 ・ かさねの色目	
第10回目	パーソナルコーディネートと色彩 [ドレーピング体験]	
第11回目	色が人に与える影響 ・ カラーセラピー	
第12回目	ファッション産業における色彩計画 ・ 情報としての色彩 ・ MPにおける色彩計画 [調査レポート]	
第13回目	商品企画としての色彩 ・ 生活段階における色彩計画 ・ 素材と色彩 ・ 色彩の管理	
第14回目	色彩の役割 　　まとめ 　　[ テ ス ト ]	
第15回目	販売における色彩計画 　　ディスプレイやファッションへの応用	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	授業に集中し、与えられたテーマを自らの考えで感じたり、表現できているか。
レポート	10%	自らの考えでまとめ、内容にあった提出物となり、期限に提出されているか。
調査報告書	10%	調査内容は的確にまとめているか。
小テスト		
試験	50%	与えられたテーマを理解し、色について、考え、感じ、表現できているか。
発表内容（態度含む）		
その他	10%	ノートの提出 　　授業理解の確認
教科書と参考図書		
教科書：ファッション色彩[ I ]（ファッション色彩能力検定試験準拠）、 配色カード158a（財）日本色彩研究所 参考書：FASHION COLOR（財）日本色彩研究所、 Lovely Colar（財）日本色彩研究所 プリントの配布		
履修上の留意点・ルール		
積極的に授業参加することを望む。 スケッチブック、色鉛筆等準備する。 検定試験受験は別途説明する。		